

「クラシノコアゲ応援団」福島県中央街頭行動第18弾

過去最高の営業利益も、働く者の格差は拡大、非正規社員は増加

～多様な価値観を理解しあい、頼れる仲間の社会をめざす～



主催者代表挨拶をする今野会長

クラシノソコアゲ応援団・街頭行動第18弾は、12月7日午後5時から福島駅東口（ツイン広場前）にて、連合福島と県労福協の共催で連合福島の役員が中心となって開催された。

主催者を代表して今野泰連合福島会長が「企業の営業利益が過去最高を上回る報道がされてはいるが、リーマンショック前年の2007年当時には届かない現状にある。さらに、正社員は487万円、非正規社員は172万円、立場の違いが315万円の格差を生み出している。雇用環境も統計上は失業率の改善で完全雇用が実現したと言われてはいるが、企業や会社に雇われた働く者いわゆる雇用者のうち「パートタイマー」、「アルバイト」、「契約社員」などの非正規労働者は2,000万人を超え、雇用者数の約4割近い数字を示している。加えて、日本の貧困率は3年前の16.1%から15.6%に下がったとはいえ、一人親世帯の貧困は50.8%、OECD加盟国で最悪の水準とさえ言われている。既に、社会の分断、不安定、不安感は一層増しており、頼りあえる社会へドラスティックに転換しなければならない。2018春闘にむけて、労使関係の強みを活かし、緊張と信頼関係のもと生産性向上とそこから得られる成果の公正な配分を求め、特に同一労働同一賃金などの均等待遇、有期契約者の無期転換の取り組みなど、非正規労働者の処遇改善について、個別の労使、産業別の労使のど真ん中においた取り組みを進める。そして、クラシノソコアゲ応援団として、多様な価値観を理解しあい、不安におびえる社会から頼れる仲間の社会をめざす」と、挨拶した。



紺野社民党県連代表



佐久間県労福協事務局長

また、これまでの街頭行動で連帯をいただいていた社民党福島県連からは代表の紺野長人県議会議員から激励のご挨拶を頂き、さらに、県労福協の佐久間通事務局長より給付型奨学金制度導入の現状と課題について報告がなされた。また、今回は、年末商戦で賑わう駅前でも多く、「働き方改革」のチラシ入りティッシュを配布しながら、連合福島が取り組む「クラシノソコアゲ応援団」等の活動について理解と協力を訴え、加えて市民の皆さんに労福協・連合福島の取り組みを理解をして頂く良い機会となった。



進行する遠藤副事務局長



福島駅東口「ツイン広場」前で開催